創刊１５０号に寄せて

150号発稿にあたり、創刊号の頃を思い起こして

第３３代笠岡市議会議長
幡司　勝治

議会を去って８年が過ぎ、考えてみますと、「笠岡市議会だより」は今年１１月で１５０号ですから、創刊号は３７年前、昭和５４年に出されたことになります。創刊の頃を思い起こしてみますと、昭和５１年に小野市長が退任し、市長・市議の選挙で渡邊市長が当選し、私を含め９名が新人議員として議会に席を置きました。昭和５４年当時は吉井議長、内田副議長でした。議会だより発刊にあたり、他市を参考にしつつ議会で論議が交わされたことを思い出します。

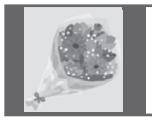
議会だよりにより、議会での審議の内容、会派の代表質問・一般質問や議員の活動も市民に知らせ、市民の皆さまからも「少しは、議会の活動が分かるようになった」と、言われたことを覚えております。

その年は、名誉市民・小野竹喬画伯が８９歳で永眠され、島の水不足解消を目指しての海底送水管の敷設が完了して北木島へ送水を開始し、飛島・小飛島無医地区の住民の期待をになって、患者輸送艇が初就航した年でもありました。国では、第３５回衆議院議員選挙が行われ、第２次大平内閣が成立し、世界に目を向けると、イギリスでは鉄の女と言われたサッチャーが先進国初の女性首相となった年でもありました。

「議会だより創刊号」が、過ぎた時代の出来事、またそこに居た議員たち、議場を懐かしく思い出させてくれるとともに、それらに対して限りない郷愁をおぼえます。

政治とは、市民の繁栄と平和は勿論のことですが、その陰にあって一人でも不幸せに泣く人のない、公平で行き届いた人間味のあるものでなければならないと考えます。それらの実現のため、信頼や連帯感を基調とする市民本位の清新な市政実現に、議員の皆さま方には、もてる力と情熱のすべてを傾けて議会活動を展開していただきたいと思います。

議会だより作成に協力してきた事務局職員に敬意を表しながら、「議会だより１５０号」を祝いたいと思います。



まとめにかえて

今回、特集という機会に過去の紙面を紐解く中で、笠岡市の歩みを学び、当時直面していた様々な課題を知る中で、改めて地方自治における議会の役割を認識しました。

今後も、笠岡の発展に向け励んでまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。